

ご挨拶

公益社団法人全国精神保健福祉会連合会理事長

本條 義和

本日はみんなねっと主催のメリデン版訪問家族支援事業・報告集会のご案内を差し上げましたところ、ご来賓の日本財団様はじめ多数ご参集くださりましてありがとうございます。

また、イギリスのバーミンガムで実践されている「本人とともに家族全体を支援する行動療法的家族支援」を私どもみんなねっとにご紹介くださった佐藤純先生をはじめ早い時期からご尽力くださいました諸先生方、並びに今後みんなねっとに代わりメリデン版家族支援技術の日本普及に取り組んでくださる「一般社団法人メリデンジャパン・ファミリーワークジャパン」の皆様方にも敬意と感謝とお願いを申し上げます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



さて、後程、私のほうからもご報告申し上げますが、みんなねっとではその設立以来家族会の全国組織として本当の意味の家族支援について模索し、様々な取り組みを行ってまいりました。家族の実態調査を行い3つの孤立に苛まれる家族実態が浮き彫りになると、「家族に対する情報提供等7つの提言」も行いました。

そうした中、佐藤先生が平成24年7月頃当時の川崎洋子理事長や良田事務局長にお話をいただき、翌平成25年3月に、佐藤先生、伊藤千尋先生をはじめ、みんなねっとから木全副理事長とわたくしと鈴木事務局長が参加しました。現地では、宋未来先生が通訳をしてくださいました。その視察の目的は単なる視察ではなく、交渉・契約にあったようですが、

その後の取り組みについては後程ご案内があるかと思いますが、精神保健福祉施策は徐々に変わりつつあります。精神障害者就労につきましても、精神障害者の雇用義務化が図られ、おそらくいまだかつてないような雇用率のアップとなるように思います。家族支援につきましても、障害児分野から問題提起がなされました。みんなねっとも行動療法的家族療法の日本普及を目指しメリデンジャパン様とともに進んでまいりたいと思います。今日お越しの皆様方のご健勝でのご活躍をご祈念申し上げ主催者挨拶といたします。

ありがとうございました。

メリデンファミリーワーク これまでの事業報告

公益社団法人全国精神保健福祉会連合会理事長

本條 義和

1、メリデンファミリープログラムを視察

みんなねっとでは、その設立以来本当の意味の家族支援を目指して、様々な取り組みをおこなってきました。全国的な実態調査をし、「必要な知識が得られない」という情報からの孤立、「困ったときの相談場所がない」という社会からの孤立、「病状が悪化した時にも必要な支援が受けられない」という支援からの孤立の3つの孤立に苛まれている家族の深刻な実態が浮き彫りになりました。この生活実態を、行政をはじめ少しでも多くの人に知っていただくために「家族に対する適切な情報提供」や、「家族対象の訪問型サービス」等家族が求める家族支援にかかわる「7つの提言」をしました。そうした中で、イギリスのバーミンガム地方で本人を含む家族全体を訪問によって支援する行動療法的家族療法（支援）技術が開発され実践されていることを知ったのです。

その支援方法は、メリデンファミリーワークという技法で、支援を必要としている家族全員に対して専門職の人が家庭を訪問し支援していくものでした。その研修機関がメリデンファミリープログラムで、同研修所は、この種のプログラムとしては世界最大級といわれていました。みんなねっとでは、京都ノートルダム女子大学の佐藤純先生をリーダーとし、淑徳大学の伊藤千尋先生、それに当会の木全義治副理事長、鈴木紀善事務局員と私、本條の5名に、通訳をいただいた宋未来先生（精神科医師）の6名でメリデンファミリープログラムを視察することにしました。

2013年3月17日、日本を発ち、翌日、バーミンガム&ソリハル NHS の研修所を訪問しました。そこではファデン所長、クリス次長、スタッフでご自身が精神障害者家族であるピーターウッドハムさんから「訪問による家族支援技術」であるファミリーワークの概要の説明がありました。

説明内容は、個々人の家族の話聞いて、困っていることや解決したいことをスタッフと一緒に解決していく過程そのものであること、必要に応じて病気や治療についての説明をおこなうこと、家族間のコミュニケーションの支援をおこなうこと、家族会議の支援再発危機のサインの確認なども行うとのことでした。

日本でも、家族教室（家族心理教育）や家族SSTなどが行われていますが、多くが集団を対象としたものであるのに対し、ファミリーワークは各家庭を訪問し、個別セッションを行うことに大きな違いがあると思いました。

またファミリーワークの特徴としてエビデンスベースド（研究結果に基づく）があげられます。もともとイギリスで家族支援が進んだのはファルーン教授等1年後の統合失調症の再発率の研究結果（エビデンス）、すなわち本人に対する支援だけよりも、本人を含む家族全体を支援するほうが、はるかに効果が高いことから、イギリスでは家族支援に大きく舵を切ったのです。そのプログラムの開発者こそファルーンであり、現メリデンファミリープログラムのファデン所長だったのです。

視察では、これらの説明だけでなく、就労支援の現場や病院クリニックの見学もありました。

多くの方から体験を聞かせていただきましたが、最終日に家族スタッフピーターさんと奥さんのマーガレットさんから、「最初は精神疾患について理解することや技術を習得することは大変だった。また息子の状態が悪くなると、私たちも落ち込んだ。しかし、ファミリーワークを受けているうちに、息子と自身自分をよくしたいと思うようになった。早い時期に支援を受けてよかった。この支援にとっても感謝している。家族が前向きに生きていくうえでとても役立っている。」との体験を聞いたことが一番印象に残りました。



みんなねっとフォーラムであいさつする本條理事長

2、家族支援技術の日本導入

日本導入の1年目は、神戸で開催された「英国メリデン版訪問家族支援技術 紹介セミナー」(2014年3月3日 於：神戸市教育会館)から始まりました。これは、月刊「みんなねっと」2013年6月号の「イギリスの家族支援視察 メリデン・ファミリー・プログラム」を見られた神戸市議員民主党議員団(当時)有志の方がメリデンまで視察し、「日本に来られるのだったら神戸市でも短時間でいいから紹介セミナーをしてほしい」と直接ファデン所長に要望されたからです。このミニセッションには神戸市議、神戸市職員、兵庫県職員、および兵庫県連(兵家連)の有志家族等約80名が参加しました。

2014年3月5日は京都市の京都テルサで、同年3月5日には東京都渋谷区の津田ホールで「みんなねっとフォーラム2013」【Work with Families - 英国メリデン版訪問家族支援技術研修-】を行いました。京都、東京ともプログラムは同じ内容として、メリデンの家族支援の実践者を招いての講演研修は専門職だけでなく家族も多数参加して、支援内容への関心の高さを示した結果となりました。大盛況でした。

講演Ⅰ「英国の精神保健分野における介護者支援(ケアラー支援)の概要」

佐藤 純(京都ノートルダム女子大学)

講演Ⅱ「ファミリーワークについて」

グレインファデン(メリデンファミリープログラム所長、臨床心理士)

講演Ⅲ「ファミリーワークの実践とその技術」

クリスマンゼル(メリデンファミリープログラム次長、看護師)

講演Ⅳ「本人と家族がともに支援されること-ファミリーワークを通して伝えたい家族の思いと関わり」

ピーターウッドハム氏(職員、家族)

3、みんなねっとの取り組み

この結果を受け、2014年4月メリデンファミリープログラムに正式な依頼を行いました。同年7月には「みんなねっと家族支援プロジェクトチーム」を発足、メンバーを、佐藤先生、伊藤先生、みんなねっとから本條、良田理事、鈴木事務局長、担当職員の高村

の6名で構成し、事業の推進体制を確立しました。

それから約1年の検討を経た2015年、バーミンガムで行われるファミリープログラムの基礎コースへ5名の受講者を派遣することができました。

11名の応募者の中から、酒井一浩氏(北海道・作業療法士)、吉野賀寿美氏(北海道、看護師)、小松容子氏(宮城県、看護師)長江美代子氏(愛知県、看護師)大野美子氏(愛知県、精神保健福祉士)の5名の方が選抜され、受講されました。英国まで同行された佐藤先生が「日本でも本人と家族をともに支援する家族支援の実現を」と題し、月刊みんなねっと(2015年11月号)で詳しく報告されていますのでご参照ください。

日本に帰られた5名の方は、私ども「みんなねっと」の協力委員として、佐藤先生のマネージメントの下、それぞれ地道にファミリーワークの更なる習得と、普及活動を展開してこられました。

2016(H28)年度の事業課題は、基礎コースの修了者が国内で試行事業を行う、試行事業を基にメリデンのスーパービジョンを受けたのち、トレーナーズコースへ参加する、というものでした。



メリデンファミリーワークの講師のみなさんとの食事風景

スーパーバイズの実施状況一覧

回数	参加者数	スーパーバイズの実施日
第1回	2名	2016年7月18日
第2回	2名	2016年9月1日
第3回	3名	2016年10月11日
第4回	4名	2016年12月7日
第5回	4名	2017年1月18日
第6回	4名	2017年2月15日

①スーパービジョンの実施

5名の協力委員はそれぞれに勤務先との調整をおこない、試行事業を実施するとともに、その成果を基にスーパービジョンを受講されました。

それぞれの、試行事業の開始時期が異なるため、参加人数も異なりますが、スーパービジョン途中であっても、残りの回数をトレーナーズコース修了後に補うことで今年のトレーナーズコース参加が認められました。

②トレーナーズコースへの派遣

トレーナーズコースの受講は、スーパーバイズを6回受けることが前提条件でした。

2017年3月6日～10日に吉野、酒井、長江の3名を派遣、無事にコースを修了しました。

トレーナーズコースに参加できなかった残り2名の受講と、スーパービジョンの残りの参加実施は次年度以降の取り組みとなります。

2016年度の新しいメンバーとして、東洋大学ライフデザイン学部学部長の白石弘巳先生を加え、事業体制を強化しました。そして2016年度も様々な困難を解決して、無事に本日を迎えられること、そして次へのステップが踏めることを嬉しく思っています。

2016年度のプロジェクトチーム会議の開催

回数	開催日
準備会議	2016年6月26日
第1回	2016年8月5日
第2回	2016年9月12日
第3回	2016年12月2日
第4回	2017年2月20日
第5回	2017年3月27日予定